eco-edu

エコエデュ

エコエデュ

2022年度事業報告書

2023年7月発行
発行者　認定ＮＰＯ法人しずおか環境教育研究会【エコエデュ】
所在地　〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田1170-2
連絡先　TEL／054-263-2866　FAX／054-263-2867　Mail／e-info@ecoedu.or.jp
ＷＥＢ　www.ecoedu.or.jp

本報告書は社会への説明責任として公開されたものです。
引用する場合には必ず出展を明記いただき、上記事務局までお知らせください。

Annual report
2022年度 事業報告書

認定NPO法人しずおか環境教育研究会
［エコエデュ］

MISSION：エコエデュの使命

自然の中での教育を通じて
失敗・変化の中から
自分の答えを追求する人を育てる

VISION：エコエデュの目指す社会の姿

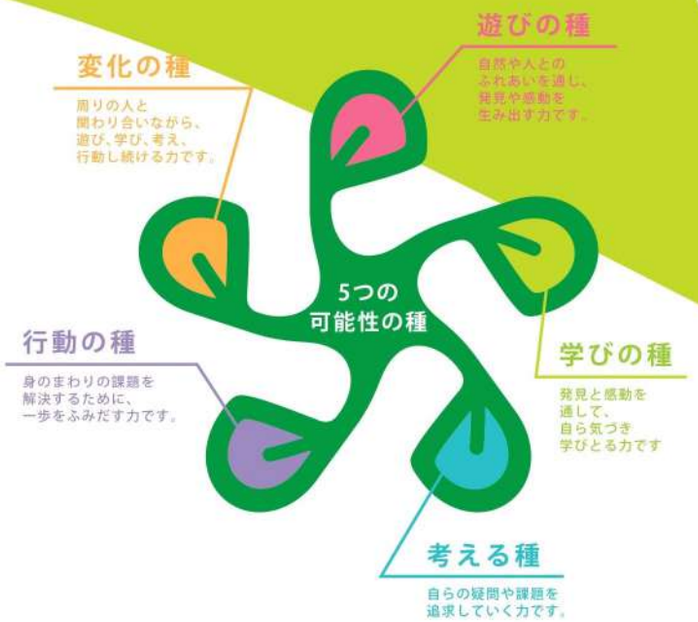
笑顔で挑戦し続ける社会へ

環境教育とは、人と自然、人と人の関係のすべてが密接に、複雑につながっていることを理解し、日常の行動を変容させ、課題解決に向かっていく力を育む教育です。

エコエデュはその考え方に賛同し、複雑さを理解する根本をはぐくむ自然体験活動を1989年から開始したNPO団体です。
地域に暮らす市民自身が伝える小さなプログラムから、行政・企業・教育機関と協働する教育事業まで日常的に発信しています。

エコエデュには、子どもから大人まで、自然と共にある未来に笑顔で向かう人々が集っています。

プログラムに込められた【可能性の種】



たくさんの考えがあるから、楽しい。

2023年度へのメッセージ

コロナ禍は終盤に差し掛かりつつも、息苦しさは変わらず、社会から大事なものがこぼれ落ちていくのを目の当たりにした2022年。安心や信頼がおおもとになければ、失敗も挑戦もできないということを痛感しました。

そんな時期に私たちの道しるべとなったのは、子どもたちの止まらない成長でした。楽しむこと、遊ぶこと、学ぶこと。人と自然と関わり合うこと、共に新しい何かを生み出そうとすることは、なにがあろうと消えない純粋な欲求なのだと、子どもたちの姿に教えられました。

混迷の時代とは、「多様な言葉の時代」なのかもしれません。これまで、個人からこぼれ出した言葉はいくつかの「大きな言葉」にまとめられていくのが常でした。しかし2022年、AIが爆発的に発展し、実在する人が発したかもわからない膨大な数の言葉がフラットに社会に溢れだす時代がやってきました。
なんて面白い時代でしょう。この言葉の海の中から、子どもたちは何を楽しみ、遊び、学んで創造していくのか。その言葉が良いか悪いかの基準ごと、子どもたちは自分で決めていくことになるでしょう。

自然とは、たくさんの命の葉が芽吹いて枯れ、また芽吹く動的な環境です。その中で育った子たちなら、ダイナミックに動的な社会でも純粋な欲求を失うことなく、自分の言葉を決めていけます。むしろ大人たちがそれに導かれていくのかもしれません。希望はいつも、変化の化身である子どもたちからもたらされていくのです。

第12期【2021-2022年】
認定NPO法人しずおか環境教育研究会
理事長　山本由加

特集
たくさんの考えがあるから、楽しい。

vol.1 まりちゃん【髙木真梨子さん】

――エコエデュでの普段の役割は？

まりちゃん：今は第2子が生まれたばかりで、スタッフとしては休憩しているんですが、それまでは週に1、2回、事務のお手伝いをしていました。出産を機に、自分自身も子どもと一緒にエコエデュのプログラムに参加したいと思い、0～3歳児とその保護者を対象にした「里山のかやねずみ」（通称：かやっこ）にも参加しています。

スタッフとしても参加者としても関わるなかで、自分自身でも一つプログラムをやりたいと思っていて、「環境楽校～エコエデュ発！コンポスト講座」を一から企画させてもらいました。

――エコエデュに関わるきっかけは？

まりちゃん：私は会社員時代、銀行に勤めていたんですが、銀行で働く中で、組織の中の序列や人間関係に自分を合わせていくのが辛い、という思いがありました。本当に 自分らしくありたいと思っていたのに、組織の考えに自分を合わせていくことに、どこか無理をしていて、苦しさが積み重なっていた時代がありました。

もっと自分らしく社会と関わる場が欲しい、そんなコミュニティを持ちたいという思いがずっと自分の中にあることに気づきました。職場と自宅の往復だけでなく、また学生時代の人間関係とも別のところで社会と関わりたい。そんなふうに思っていた時に、静岡新聞の記事でエコエデュの活動を読んで、「自然の中で子どもと関わることをやりたいな」「ここ（エコエデュ）でなら、自分らしく社会と関わることができるかな」と思ったのがきっかけです。今から10年くらい前のことです。

そうして、「スタッフとして（NPO）会員になりたい」とエコエデュに連絡をしたんです。当時は月に2回くらい、「わんぱく題楽」（小学生向けの月に1、2回のプログラム）のスタッフとして活動に参加していました。

――まりちゃんって、どんな子ども時代を送っていたんですか？

まりちゃん：子ども時代は、親が熱心に旅行とかテーマパークに連れていってくれたんですが、実は私はそれよりも、自分の家の近くの川でカニや石を観察するのが好きだったんです。おそらく親としては子どもが喜ぶところに連れていってあげたい、そういうところに価値があると思っていたのかもしれません。でも、私にとっては、（華やかな場所より）身近な川で遊ぶことにこそ価値というか、楽しみがあったのかな、と思います。親の考えと、私の楽しさの間にギャップがあったんでしょうね。

もしかしたら、生産主義から考えると価値がないように思えることにこそ、大事な価値があるのかもしれない……そんなふうに思っていたのが、今エコエデュにいる原点にあるのかもしれません。

――まりちゃんが思う、エコデュの価値って？

まりちゃん：自分が社会人の時は会社勤めをしながらスタッフとして関わっていたんですが、自分らしく活動しているなかにも、（エコエデュのスタッフや関わっている子どもたちから）自分がすごく励まされたりしてきました。休日にエコエデュで活動して、そこでリフレッシュできて、会社に戻った時も自分を保てる。そんな場所でした。

一度会社勤めを辞めた時も、自分と社会との関わりが一度切れたんですが、エコエデュの会員であることで（スタッフとして）声をかけられたりして、大切な居場所になっていました。

そして、自分が子どもを持った時にも、参加者として自分の居場所として迎えてくれて。自分自身の環境や立場が変化していても、エコエデュって、いろんな側面での自分を受け入れてくれるところなんだなと。

エコエデュに関わって10年以上経ちますが、その間私は2回の出産を経験して、今、二人の子どもの子育てをしています。もしエコエデュとつながっていない状態で、いきなり「子育てどうぞ」という状態になったら、きっと戸惑ってしまったと思うけれども、エコエデュで子どもとゆるやかに関わったことによって、自分自身が子育てをする時にも、すーっと、子育てに入っていけた。これは、変化ということではないかもしれませんが、子育てがなんとかなった、というのでしょうか。

もし私がエコエデュに関わっていなかったら、子どもに対して「大人と子ども」という関係性をつくってしまったかもしれません。だけど、エコエデュによって、子どもを一人の人格として関わらなきゃな、と自然に思えるようになりました。なんか、そういう意識で子どもに向き合えるというか。子どもという存在の見え方が変わっていったのかな、と思います。

聞き手：宇都宮南海子、文：北原まどか、写真：梶田亜由美（NPO法人森ノオト）

エコエデュは、市民発の環境教育NPO。ひとりひとりの思いが、自然と人の関係をつむいでいます。

NPO環境教育にかかわる人たちの物語を伝えるインタビュー特集。
エコエデュで活躍するひとびとの魅力をひもときながら、エコエデュの大切にしている世界観を伝えます。

vol.2 トッキー【溝畑 綸さん】

――エコエデュでの普段の役割は？

トッキー：私は職員になって4ヵ月で、いまは里山adventureというプログラムのスタッフをしています。毎週金曜日に小学1年～6年生、12名の子どもたちと一緒に、「今日は山で何をしようか？」から始まって、季節ごとにいろんな種類のどんぐりを集めに行ったり、秋の七草を探しに行ったりしています。子どもたちと「スダジイ」という食べられるどんぐりがおいしいらしいという話になって、「じゃあまず焚き火をやってみよう」とどんぐりを炒るための火を準備したり。お正月はお餅を焼いてみて焦げちゃって、「焼き加減難しいね」と、毎回子どもたちにどんな気づきがあったらよいかなと試行錯誤しています。

――エコエデュに関わるきっかけは？

トッキー：前職は東京で学童保育のスタッフをしていました。100人近い子どもたちと毎日会ってはいるんですが、業務日誌を書く時に、「あの子が何をしていたのか全然見えていない…」ということに気付いて、子どもたちに関わる自信がちょっとなくなってしまった時がありました。

そこを退職してから、いろいろなアルバイトをしましたが、やっぱり子どもに関わる職業にチャレンジしたいと思って、少人数、放課後、自然…と自分のやりたいことを絞っていくと、偶然ヒットしたのがエコエデュのホームページ。そこに書かれていた子どもに対する考え方が、すごく好きだなと思ったんです。一番いいなと思ったのは、「失敗してもいい、失敗は挑戦していることだから」ーー。そんなことが書いてあって、それが僕はすごくうれしかったんです。子どもの人数が多い現場だと、リスクの大きいことに挑戦したり、なかなか「失敗」させてあげられなかったんです。エコエデュは少人数だからこそ、失敗も寛大に受け入れて、そこから学べることがたくさんある。そういう考え方をしているところなら、子どたちもきっと生き生きするんじゃないかなと思って、思い切って連絡して、今働かせてもらっています。

――トッキーは、どんな子ども時代を送っていたんですか？今につながる原風景ってありますか？

トッキー：東京育ちで、自然の中で遊んだ記憶はそんなにないんですが、ゲームのない家で育って、鬼ごっこやったり普通に遊んでいました。つくることが好きだったから、凝り性な友だちと一緒に、泥だんごづくりにハマって、作品をつくっては耐久度を試したりしてましたね（笑）。

あと、小学5年生の頃、夏の終わり頃だったと思うんですけど、子どもキャンプというのに参加して、赤とんぼがすごくたくさん飛んでいる牧場みたいなところに行きました。帽子を振り回したら捕まえられるほど、赤とんぼがパーって飛んでいて、それがすごく楽しかったんです。子ども時代はその1回しかキャンプに行ってないけど鮮明に覚えていて、それがきっかけになって、大学時代はキャンプリーダーのボランティアをやっていました。そのボランティアをした時に感じた「子どもっておもしろい」が今につながっているのかなと思います。

――トッキーが思う、エコエデュの価値って？

トッキー：…う～ん、まだ言葉にするのが難しいんですけど……。

僕の昔の泥団子とか赤とんぼの話もそうですが、生きていくのに絶対に必要かと言われれば、そうではないのだけど。いろんな種類のどんぐりを集めたこととか、森の材料とマッチで火を起こせたこととか、自分の中にずっと残っている経験とか、自然の中ですごく楽しかったという体験が、その子がこの先生きていく上で何かしらの力になっていくと嬉しいですし、エコエデュはそんな活動をしているのだと思います。

聞き手・文：宇都宮南海子、写真：梶田亜由美（NPO法人森ノオト）

2022 TOPIC

1 静岡市との協働が進んでいます

あさはた緑地管理事務所主催「めざせ!あさはたマスター」の企画・運営が始まりました

2021年に開園した「静岡市あさはた緑地公園」。川の増水時に水を湿地側に誘引して下流の水害を防ぐ遊水地が、平常時は水辺環境を楽しめる公園として整備されました。
エコエデュは指定管理者である(一社)グリーンパークあさはたと、あさはたの豊かな生態系を子どもたちが自分ごととして見るまなざしを育む、年8回コースの環境教育プログラム「めざせ!あさはたマスター」を静岡市在住の小学生対象に開園初年度から開催しています。エコエデュスタッフ、あさはた緑地公園スタッフ、地域の自然をよく知る市民先生、静岡市環境創造課(現:環境共生課)がタッグを組んで、充実した春夏秋冬のプログラムが展開しています。子どもたちを送り出したあとの保護者のみなさんが公園整備ボランティアに参加する取り組みも始まり、「あさはたマスター」を軸に、あさはた緑地に新しい人の輪が生まれています。
人と人、人と自然の間に新しい価値が生まれ、つながりが動き出すこと。それが、エコエデュの役割であり、目指す地域の姿です。

静岡市協働パイロット事業「若手先生もできる!地域人材と連携してできる!もういちど幼児公教育現場に自然体験を。」実施しました

エコエデュは2019年度から、幼稚園・保育園・こども園など幼児教育現場での自然体験の弱まりに危機感をもち、静岡市全園へのアンケート調査やモデルプログラムを実施してきました(地球環境基金助成)。2022年度はより具体的に課題に踏み込むため、静岡市協働パイロット事業にエントリーし市立こども園でのモデルプログラム実施とその映像化に取り組みました。静岡市環境創造課・こども園課・幼保支援課と課を横断して制作した動画は、こども園園長先生に高い評価を得ただけでなく、保育士育成に取り組む大学の授業でも活用が検討されています。これからも静岡市との連携で幼児期の自然体験の幅を広げていきます。

2022 TOPIC

2 清水建設TSUNAGIの森プロジェクトが遊木の森で始まりました

遊木の森は静岡県設立の里山体験学習専用の施設で、森林環境教育に特化した全国でも珍しい体験型の自然公園です。2021年に清水建設株式会社静岡営業所と静岡県との「しずおか未来の森サポーター協定」が結ばれ、遊木の森の一角が「清水建設TSUNAGIの森」と命名されました。エコエデュは清水建設の環境教育パートナーとして年４回の活動支援をしています。
清水建設のみなさんは森づくりに全力です!老齢のコナラの森をよみがえらせるための木の伐採から始まり、更地になった森に新しい作業道を作り、階段を作り、森の未来の姿を描いて伐採する木と残す木を決めていますが、そのすべてに遊木の森サポーターズクラブ(ボランティアグループ)の皆さんが楽しく積極的に関わっています。
企業と行政、NPOと市民のみなさんが、共に10年先の森づくりを描くプロジェクトが始まっています。

2022 TOPIC

3 15年間ありがとう!里山de遊び隊 四代目主担当誕生!びく石宝探し隊

エコエデュの原点であり宝である、会員主催事業。2022年度時点で4事業があります。どの活動も5〜10名前後の会員がメンバーとして支えており、企画運営・安全管理・会計・広報まで自主自律で行っています。主担当が10年以上しっかり守り続けている活動もあれば、何代にもわたって後継者に手渡している活動もあります。最近は会員主催事業に大きな変化が2つありました。

里山de遊び隊

小学生対象・年間12回開催の「里山de遊び隊」。2005年にスタートし、里山整備に長けたベテラン陣を中心に、子どもたちに山道具の使い方を教え自然物でものづくりをして遊ぶ楽しさを伝えてきました。2020年度を最後に惜しまれながら幕を閉じましたが、「里隊のスタッフになるのが夢だった」というかつての参加者が大学生スタッフとなってくれるなど、里隊はたくさんの子どもたちの未来を育てました。

里山de遊び隊主担当
くまさん
大石 順一

びく石宝さがし隊

2009年度からスタートした「びく石宝さがし隊」。小学生対象に、山あり川ありの藤枝市瀬戸谷で年5回開催されています。2022年度、宝隊は四代目の主担当に代替わりしました。藤枝市在住の会員などに支えられて、宝隊の体験は14年目を迎えます。

びく石宝さがし隊主担当
ダイチ
鈴木大介

主要事業 全体図

2022年度版

スタッフ参加数 のべ 1,231人／年間55事業／のべ開催日数371日／参加者数のべ5,918名

■ 地域で学びを深める

	年間プログラム 毎週開催	年間プログラム 毎月開催	長期休み / 不定期開催
乳幼児	里山のかやねずみ 親子 ★会員事業 里山やっほ 年中・年長		
小学生	里山QUEST 1～2年生 里山adventure	わんぱく里山 ★ わんぱく題楽 親子 ★ びく石宝さがし隊 ★ 里山QUEST II 3～6年生	里山BASE
中学生		里山QUEST III 中学生	
成人		里山づくりプロジェクト	環境楽校「エコエデュ発!コンポスト講座」 安全衛生講習会 野外・災害救急法体験セミナー

※主催年間プログラムは毎年2月ごろ、長期休みプログラムは1ヶ月前ぐらいに申し込みがはじまります。
WEBサイトをご確認ください。空きがあれば途中参加も可能です。お問い合わせください。

■ 協働で可能性を広げる

	教育機関	企業・団体	行 政
乳幼児	自然の中での幼児教育の多様性発信プロジェクト 鳩の子保育園 公園あそび支援		静岡市協働パイロット事業「もういちど幼児教育現場に自然体験を。」 (公財)静岡県グリーンバンク「自然を生かした保育・幼児教育」動画作成 静岡市「自然あそび動画」企画出演
小学生		清水建設株式会社 TSUNAGIの森 親子プロジェクト konoki放課後デイサービス 自然体験活動研修	(公財)静岡県グリーンバンク 小学生向け森林ESDプログラム開発 (公財)静岡県グリーンバンク 緑の少年団交流集会 あさはた緑地管理事務所「めざせ！あさはたマスター」
成人	静岡大学農学部安全講習 静岡市私立保育園長会 保育士対象自然遊び研修会	トヨタユナイテッド静岡株式会社 トヨタユナイテッドの森づくり (一財) エコティかわね 安全講習会	静岡県 森づくり団体安全管理講座 静岡県 森づくりミーティング
他			静岡県（中部農林事務所） しずおか里山体験学習施設 遊木の森 管理運営

5つの事業

- **環境教育事業** 未来につながる人づくりを目指して、環境教育プログラムを企画し運営します
- **人材育成事業** 環境教育プログラムを企画し、運営できる地域の人材を育てます
- **環境教育の場の創出事業** 環境教育に参加でき、実践できる場所を創出します
- **関係の創出・再発見事業** 社会の多様な主体と協働して、環境教育の新しい形や可能性を探ります
- **環境教育研究・啓発事業** 未来の人づくりのための研究を行い、また多くの人に環境教育を伝えます

エコエデュプログラムを支えるひとびと

事務局スタッフ

理事長 山本 由加

事業主任 事業全般 遊木の森主担当 ちがりん 柴崎 千賀子

事業担当 ゆいまーる 栗山 浩子 2023年6月～ 新理事長

事務局長 事務局統括 運営総務全般 びあのん 鈴木 玲子

事業担当 ゆっぎー 石川 友紀

事業担当 ちゃい 大野 知子

事業担当 すずくん 山下 光貴

事業担当 トッキー 濱畑 綸

事業担当 とも 山田 智子

事業担当 岡野 弥生

会員事業主担当 ★会員事業

わんぱく題楽主担当 サニー 髙熊 幸代

わんぱく里山主担当 こばちゃん 小林 泰之

びく石宝さがし隊主担当 ダイチ 鈴木 大介

エコエデュのすがた

沿革

1989　前身団体・山の暮らし体験の場『ずしゃ立』設立
1998　任意団体『しずおか環境教育研究会』設立

詳細

2000　特定非営利活動（NPO）法人設立
2013　内閣総理大臣表彰　受賞
2016　認定ＮＰＯ法人格　取得
2021　環境大臣表彰　受賞

メディア掲載

2021年4月28日　静岡新聞　環境教育事業評価　エコエデュ大臣賞
2021年6月24日　静岡新聞　みどりの日環境大臣表彰　静岡のエコエデュに伝達
2022年1月7日　静岡新聞　地方創生推進へ協定　トキワＨＤ(浜松)とエコエデュ(静岡)

2022年10月20日　パステルIT新聞　「降園後は『里山探検』素の自然に身おいて」
2023年2月24日　リビング静岡「五感で育む子どもの感性」

受賞

2013　平成25年度子ども若者育成・子育て支援功労者表彰＜子ども・若者育成支援部門＞
内閣総理大臣表彰

2021　令和3年度「みどりの日」自然環境功労者
環境大臣表彰・自然ふれあい部門

役員　第12期【2021-2022】

理事会はビジョンミッションに基づいて中期計画を策定し、その進捗を管理する経営チームです。
さらに組織課題の変化に応じ認定NPO法人の社会的責任を果たすため、知見や人脈を持つ社会の人材が参画する外部理事の制度もあります。

理事会
理事長 山本 由加　理事 山下 和昭　理事 山崎 訓志　監事 渡邊 満昭
副理事長 兼髙 里佳　理事 山本 洋平　理事 鈴木 玲子

エコエデュは市民のみなさまに支えられています ご寄付をお願いします

詳細

2021-2022年度ご寄付（敬称略・順不同）

2021-2022年度 助成
地球環境基金／地域緑化の推進事業助成金／
緑の少年団助成金／
イオン幸せの黄色いレシート助成金

［ご賛助・寄付　団体］
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／株式会社アクア／株式会社ウェブサクセス／株式会社オフィスH2O／
スマートブルー株式会社／特定非営利活動法人せんがまち棚田倶楽部／地球愛祭り静岡実行委員会／トキワホールディングス株式会社／
トヨタユナイテッド静岡株式会社／トライアングル少額短期保険株式会社／中央精工株式会社／ふじみ歯ならびクリニック

［ご賛助・寄付　個人］
青島 冴子／赤星 千帆子／淺井 一朗／淺野 一恵／天野 浩史／新井 光彦／生川 由美子／池田 千尋／石川 友紀／伊藤 隆介／植田 武司／
海野 ふみ江／遠藤 星那／大石 順一／大塚 裕文／大野 綾己／大野 知子／大橋 利英／大畑 実／大町 克之／岡野 弥生／岡本 恭子／小川 郁／
小野 見帆／帯金 勇司郎／笠原 成生／片山 菊美／勝間田 華子／加藤 和恵／加藤 典良／加藤 慎也／加藤 哉弥／金井 美枝／兼髙 里佳／
狩野 充功／河合 将生／川名 隆重／木内 満／北沢 美保／木下 聡／木村 智子／木村 奈々／京井 麻由／久保田 博音／栗田 宏昭／桑原 美和／
古賀 淑恵／国保 祥子／小嶋 博／小林 泰之／小林 祐介／坂本 喜美江／佐藤 めぐみ／佐藤 喜和／佐藤 奈緒／佐野 勝美／繁田 和美／
柴崎 千賀子／島倉 陽子／下茂 俊幸／菅原 博之／杉山 朝哉／杉山 達也／鈴木 公三郎／鈴木 はつ代／鈴木 玲子／鈴木 祐三子／関口 裕子／
妹尾 和彦／高橋 みなも／高橋 知也／田口 公一／立川 斉子／田中 彩音／爲季 大／津島 裕子／津田 智世子／外岡 都／冨山 雅広／外山 あけみ／
豊岡 久美／鳥倉 陽子／永井 継実／長池 伸子／中尾 文江／中川 昌昭／中西 真季／中山 佐知／南條 陽介／西田 真央／西村 良江／西村 洋子／
西山 恵子／東山 浩子／平石 眞快／平光 敬和／藤浪 葉子／藤浪 千枝／藤浪 満寿男／藤浪 幹太／北條 里美／堀田 卓／本多 早苗／本多 幸子／
毎熊 幸代／増井 洋子／増田 裕子／松永 ありさ／松本 美子／三浦 紀子／三木 はる美／水野 佳子／水野 史博／三橋 矢穂里／三宅 秀幸／
村上 友里／望月 孝之／望月 美有紀／森藤 太苗／八木 俊一／藪崎 央而／山内 美妙／山形 由美／山田 克人／山田 真友子／山本 由加／
吉川 俊康／吉沢 宣秀／吉廣 孝行／渡辺 昌教／渡邉 友基／渡辺 浩美／渡辺 裕之／藁科 弘美／

【参考】2022年度財務諸表

活動計算書

（千円）

Ⅰ	経常収益			
	1 受取会費		271	271
	2 受取寄付金		1,154	1,154
	3 受取助成金等	受取民間助成金	3,228	3,228
	4 事業収入	環境教育活動事業	12,205	
		環境教育人材育成事業	3,929	
		環境教育の場の創出事業	2,800	
		関係の創出・再発見事業	5,582	
		環境教育研究・啓発事業	561	
		その他	387	
	5 その他収益		1,639	27,103
	経常収益計			**31,756**
Ⅱ	経常費用			
	1 事業費	(1)人件費	12,217	
		(2)その他経費	6,416	18,633
	2 管理費	(1)人件費	7,456	
		(2)その他経費	5,451	12,907
	経常費用計			**31,540**
当期正味財産増減額				**216**
前期繰越正味財産額				7,889
次期繰越正味財産額				8,105

貸借対照表（2023年3月31日現在）

（千円）

Ⅰ 資産の部			**Ⅱ 負債の部**	
1 流動資産			未払金	2,626
現金	395		預り金	254
預金	7,334		前受金	22
前払金	137		未払消費税等	597
未収金	3,708			
繰越商品	30			
流動資産合計	11,604			
2 固定資産	0			
資産合計	**11,604**		**負債合計**	**3,499**
正味財産				**8,105**

財務全般責任者：山本由加(理事長)　会計担当：鈴木玲子(事務局長)
顧問税理士：木村美都子税理士事務所　木村昌宏氏